



T  
W  
A  
N  
G  
2

Fender





# ペーパーフェリクのことだけども。

オールド・ストラトのポジションマークに使われているクレイ・ドット。これ、実はペーパー・フェリク(紙にフェノール樹脂を含ませたもの)なのです。フェンダー・ジャパンのヴィンテージ・シリーズはこのペーパーフェノールをU.S.Aより取りよせ、全ローズ指板モデルに使用しています。

ピックアップのボビンもペーパー・フェリク。アルニコ・マグネットの上下にペーパー・フェリクを差し込んで、一度ラッカーにひたして固定し、コイルを巻き上げた後、再度ラッカーにひたして固めるのです。

ペーパー・フェリクは初期のテレキャスターのピックアップガードにも使われていました。この場合、表面にラッカー塗装を施して光沢を出しています。TL'52-95ではこのピックアップガードまでも再現してしました。

かつてペーパー・フェリクはアンプの基板などに使われていたのです。スチール・ギターやアンプの製造メーカーとして活動していたフェンダーですから、身近な素材だったのでしょう。

フェンダー・ジャパンに寄せられたご質問にお答えします。というページです。

ピックアップガードといえば、50年代のストラトトキヤスターの白の1プライのピックアップガード、実は2プライなのです。この当時1プライで厚みがあるものがなかったというのがあるの真相のようです。ST'57シリーズではこの1プライに見える2プライピックアップガードをしっかりと採用している。

## 1プライのようで、2プライ。



臭くない。スカンク。メイプル・ビース・ネックではトラスロッドをネックの裏側から仕込むので、ブラック・ウォールナットで溝を埋めている。これが印象的なブラウンのストライプとなっているわけなんだけれど、スカンクの背中の縞模様になぞらえて工場では「スカンク・ストライプ」と呼んでいる。同じ目的で、ヘッドからもブラック・ウォールナットが挿入されており、ナットの下にブラウンのワンポイントとなつて表われている。

好き嫌いがありませんから。



オールドのベースでは弦の右側に位置するフィンガー・レスト。ヴィンテージ・シリーズのベースでは付属品となっており(PB'57-95、PB'62-98、JB'62-115)取り付けられていません。ブリッジ・カバーとピックアップ・カバーも付属品となっています。(ベース全機種)。テレキャスターの場合、TL'52-95にはブリッジ・カバーが付属しています。(TL'52-65にはブリッジカバーは付いていません)。

## いいところは残します。

オールド・フェンダーとフェンダー・ジャパンのヴィンテージ・シリーズの相違点はネックのグリッパ形状にある。ジャズ・ギターのネック断面にならった「Vネック」または「三角ネック」を好む人は少ないので、現在のロック系の奏法に合ったグリッパにあえて変更したのです。握りやすい、手にビタツとくるグリッパ感。フィンガーリングもスムーズにきまるとよ。

プレジジョンベースに関しては、グリッパだけでなくナット幅も変更されている。オールド・プレジジョンはウッドベースのネック・グリッパを真似たため、ナット幅が現在のものより3ミリほど広いのです。ここでも演奏性を優先した、オールドより細かいネックにチェンジ。

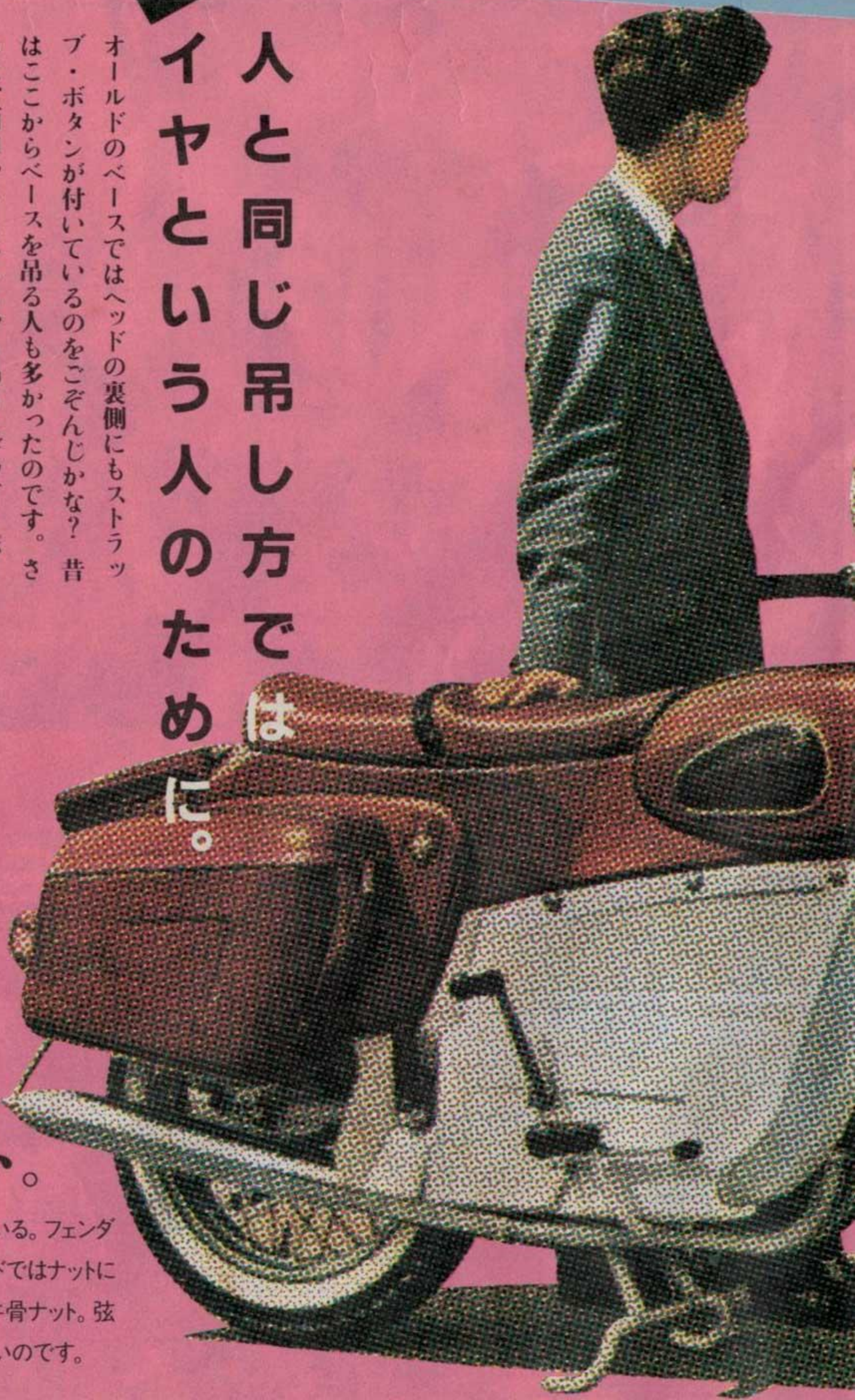


## 納得のゆくナット。

フェンダー・ギターではナット、フレットとも、溝切りは指板のアールに沿っている。フェンダー・ジャパンでももちろん同様の溝切りを行っていますよ。ところで、オールドではナットに合成樹脂製のものを使っているけれど、ヴィンテージ・シリーズのナットは牛骨ナット。弦振動の確かな伝達を考えると、やはりソリッドで重量のあるナットの方がいいのです。

人と同じ吊し方ではイヤという人のために。

オールドのベースではヘッドの裏側にもストラップ・ボタンが付いているのをごぞんじかな? 昔はここからベースを吊る人も多かったのです。さらに、面白いことにここから吊るとデッド・ポイントを弱める働きが生じるのです。知ってたあ?





10人いれば、10色の個性があるのですね。



メイプルネックなら、友バコがブラック。ローズネックなら、3トーンサンバーストかホワイトというコンビネーションがホビュラーなんだけど、このヴィンテージカラーに新たに加わったのがCAR(キャンディアップルレッド)とFRD(ファイエスタレッド)。CARはメタリック色の強いステージ感のカラーフィニッシュ。FRDは、いわゆる朱色。QUERシリーズにはCBL(カルフォルニアブルー)もある。

昔から、「フェンダーまがい」には困っています。

ドキッとする写真では、この広告も負けてはいませんね。「世界で一番コピーされているギター」というキャッチフレーズ。壁に貼られたフェンダーの写真、ひと昔前の道具が泣かせます。日本製コピーギターに対する意見広告でしょうか、60年代後半のもので、コピーされるといふことは、フェンダーの優秀性を証明しているわけだけど、ストラトにしるプレジジョンベイスにしる、ヘッドストックにFENDERと入っていないストラトやフレッシュジョン、テレキャスター、ジャズベイスは、スタイルは似ていてもやはり紛い物。気をつけましょう。

とりあえず、写真をごらんください。これ欧米の教科書に載っている「ニッポン」ではありません。60年代のフェンダーの広告のひとつなのです。エッチングのイラストレーションがかもし出す新内のお姉さん(多分ね)のミステリアスな表情が、このキツェさがたまらなくよしい。パチでエレキを弾く、こういうお姉さんが出てくるとロックも面白いんだけどね。松村和子サンに励しのお手紙を書こう。



LEFTY FENDER PICK'N GOOD!



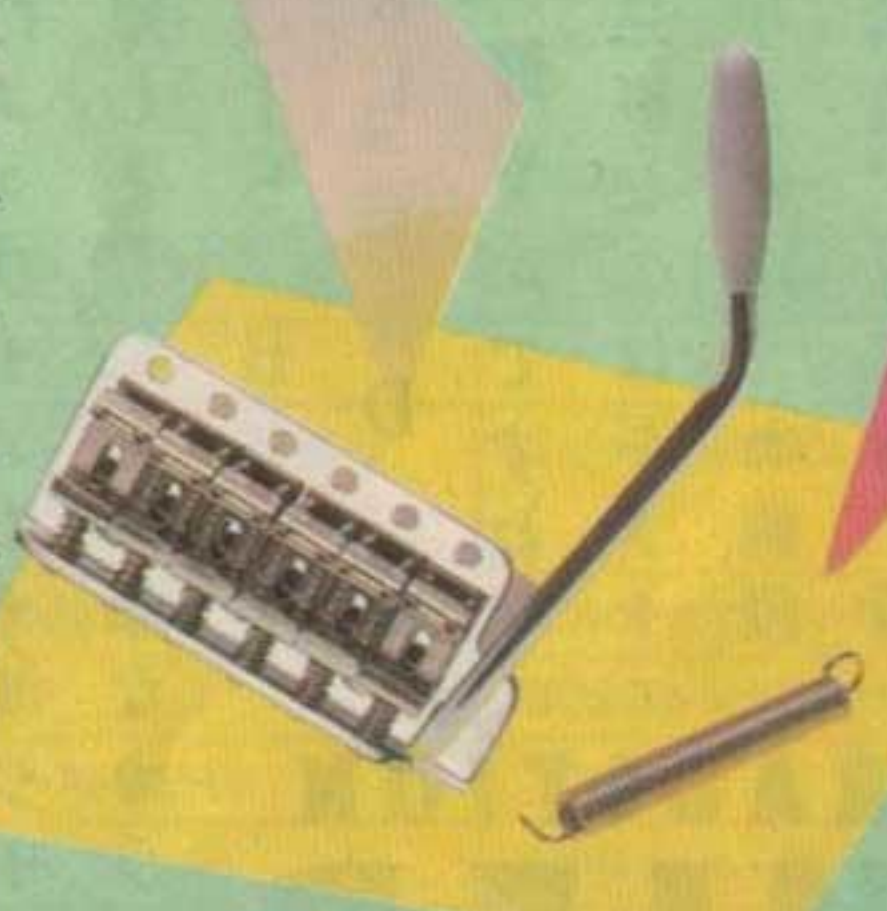
サウスポーの方、お待たせしました。ヴィンテージ・シリーズに左用ギターが加わりました。詳しくはウラ表紙をごらん下さい。



ボブ! レキ弾いちゃダメ。

1965年の第5回ニューポート・フォーク・フェスティバルにバックバンドを伴って出演したボブ・ディランは、観客から猛烈なヤジをあび、たった3曲でステージを降りてしまった。ヤジられた理由はエレキギターを弾き、ロックンロールを演ったから。(信じられます?) その時弾いていたギターがなんとフェンダー。キツェイ洗礼てした。

ヴィンテージ・フェンダーシリーズに使用されているピックアップ、ピックガード、コントロールノブなどのフェンダー純正パーツが別売されます。ネックやボディを除くハードウェア部品が単体で買えるというわけでお楽しみに。



アツと驚く、広告。

純正フェンダーパーツが別売になります。



Fender  
JAPAN

Squier®

THE TRADITION

## フェンダーを超えるか。

はじめまして。SQUIERシリーズと申します。エレクトリックギターの巨星、フェンダーの血統を受け継ぐ唯一のブランドです。右ページのラインアップをごらんください。これがスクワイアーシリーズの全身像です。STRATOCASTERとかPRECISION BASSといったフェンダーの傑作モデル名がヘッドストックに入っています。つまり、全身これフェンダー魂という証明なのです。ボディは十二分にシーズニングを重ねたアルダーやアッシュを、フェンダーオリジナルの顔通りにアフローチ。素材の特性をいかしたコンタクトボディデザインが弾きやすさと弾き応えを実現しています。フェンダーが考え出し、ポピュラーとなったディタッチャブルネック。狂いの少ないメイプルを使い、トーンニュアンスの異なるローズウッド指板（ローズネック）も加えて、ラインアップを充実させています。肝心なメカニカル部分、ピックアップ&ハードウェアのディテールもしっかりフェンダーを踏襲しています。とくにピックアップはフェンダー譲りのタイト&ブライتناートーンを確保しながら、大型アンプとのマッチングを考慮。マグネット特性を強化したスクワイアーオリジナルピックアップを開発しました。入念なカラーフィニッシュは、3TS、BLK、BLD、CBL、FRD、W、Tの7色。鮮やかですね。ところで、見事なのはギターだけではありません。お値段の方も実に素敵。とても手頃です。SQUIER、カスタマーフォーマンスを実現したギター&ベース。よろしく。

THE TRADITION  
SQUIER

FENDER JAPAN, LTD.



# I N S P I R I T S.



**SST-45 ROSE NECK ¥45,000**

コストパフォーマンスを実現したローズネックストラト。フェンダーのエッセンスを凝縮。ギタリストの要求に応え、優れたコストパフォーマンスを実現。ウォーム&ドライなストラトサウンドを追求した新開発SQ-4PUをマウント。



**SST-45 MAPLE NECK ¥45,000**

57年ストラトの血をひく枯れた響き。そしてフォルム。枯れたマイルド&ドライなストラトトーン。フェンダー譲りのブライトネスも十分なPU、SQ-4シングルコイルピックアップを搭載。誰もがここから始まる。ロックギターの原点。



**SST-50 ROSE NECK ¥50,000**

トップギタリストが指名するローズネック・ストラト。強力無比なパワー、ウォーム&ドライなトーンは新開発SQ-5PUと十分にシーズニングされたボディ素材のバランス関係から生まれる。スムーズなフィンガリングを約束する1本。



**SST-50 MAPLE NECK ¥50,000**

トラッドなスモールヘッド。メイプルネック・ストラト。メロウ&ドライなオールドトーンがビシッと決まるSQ-5PUをマウント。通好み、フェンダー譲りのトラッドなディテールが随所に。by FENDER の名にたがわぬ傑作。ストラトSST-50。



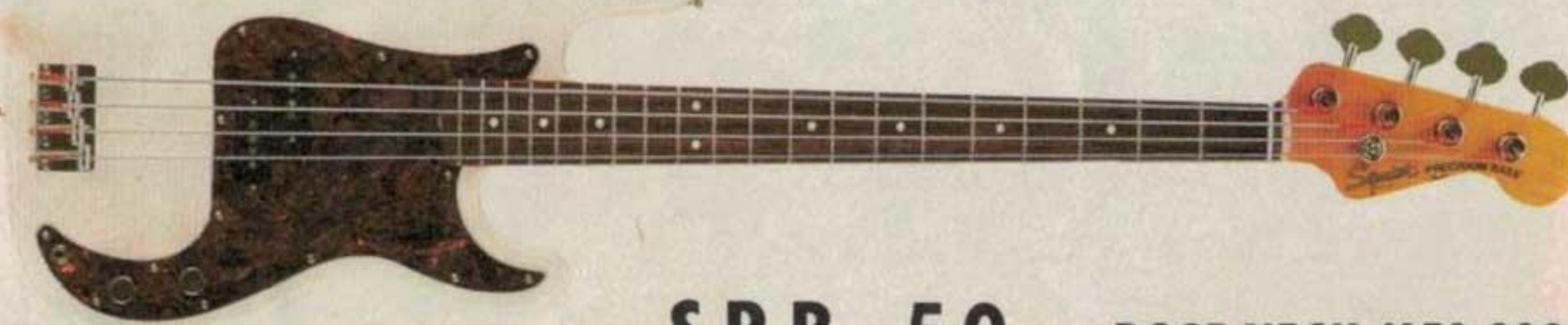
**STL-50 ROSE NECK ¥50,000**

通がかかえる1本。スタンダードヴァージョンのテリー。卓越した演奏性、特徴的なトワニングトーン、飽きのこないシンプルフォルム。オールマイティにテクニックを駆使するギタリストが好むベーシックなモデル。テレキャスター。



**STL-50 MAPLE NECK ¥50,000**

ソリッドギターのルーツ。革命児、テレキャスター。サウンド、フォルム、演奏性のすべてに優れたメイプルネックのテリー。シンプルゆえにテクニック派と呼ばれるギタリストに愛され、弾き継がれてきた。真の実力派にすすめたい。



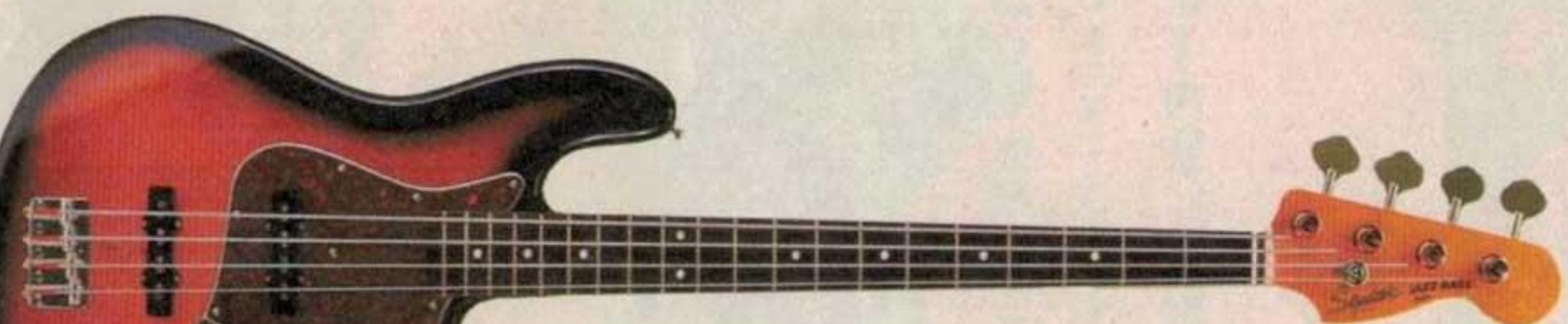
**SPB-50 ROSE NECK ¥50,000**

エレクトリックベースと言えば、プレジジョンのことだ。ベーシストの要求に応えたシビアなディテール。ローズネックPB特有、スムーズなフィンガリングが弾き出すタイトな重低音。名ばかりのエレクトリックベースがかすむ見事な風格。



**SPB-50 MAPLE NECK ¥50,000**

ソリッドベースの基本。ジャンルを超えたアピアレンス。エレクトリックベースを代表するタイトで腰のある重低音。ソロよし、サポートよしのプレイアビリティ。無駄のないフォルム。オールドフェンダーの血統を受け継ぐベストセラー。



**SJB-55 ¥55,000**

ヘビー&タイトが基調。名手が弾くジャズベース。フェンダージャズベースを踏襲するヘビー&タイトなサウンド。名手が弾き出すメロディアスなフレーズも思いのまま。豊かな音楽性、卓越したライブ特性は世界のベーシストが証明。

**SQUIER FINISHES**

3TS (3トーンサンバースト)    T (タコブラウンサンバースト)    VWH (ヴィンテージホワイト)  
BLK (ブラック)    FRD (フィエスタレッド)    CBL (カリフォルニアブルー)    BLD (ブロンド)

●SPECIFICATIONS

SERIES	STRATOCASTER		TELECASTER	PRECISION BASS	JAZZ BASS
MODEL	SST-45	SST-50	STL-50 STANDARD MODEL	SPB-50	SJB-55
NECK	1ピース・メイプルネック/メイプル指板 1ピース・メイプルネック/ローズ指板	1ピース・メイプルネック/メイプル指板 1ピース・メイプルネック/ローズ指板	1ピース・メイプルネック メイプル指板またはローズ指板	1ピース・メイプルネック/メイプル指板 1ピース・メイプルネック/ローズ指板	1ピース・メイプルネック/メイプル指板
BODY	アルダー・コンタドボディまたはアッシュボディ	アルダー・コンタドボディまたはアッシュボディ	アッシュボディ	アルダー・コンタドボディまたはアッシュボディ	アルダー・コンタドボディまたはアッシュボディ
PICK UP	SQ-4シングルコイルPU×3	SQ-5シングルコイルPU×3	SQTL-1シングルコイルPU×2	SQP-2スプリットPU×2	SQJ-3シングルPU×2
PICK GUARD	1ピース・ホワイトまたは3ピース・ホワイト	1ピース・ホワイトまたは3ピース・ホワイト	3ピース・ホワイト	ペックウ柄または3ピース・ホワイト	ペックウ柄
CONTROLS	1ボリューム・2トーン	1ボリューム・2トーン	1ボリューム・1トーン	1ボリューム・1トーン	2ボリューム・1トーン
COLOR	BLK (メイプル指板) FRD/CBL/VWH (ローズ指板)	T/BLK (メイプル指板) 3TS/CBL/VWH (ローズ指板)	BLK/BLD (メイプル指板) BLK/BLD (ローズ指板)	T/BLK (メイプル指板) CBL/3TS/VWH/FRD (ローズ指板)	3TS/VWH/BLK/CBL
ACCESSORIES	ジャックコード (3m)	ジャックコード (3m)	ジャックコード (3m)	ジャックコード (3m)	ジャックコード (3m)
PRICE	¥45,000	¥50,000	¥50,000	¥50,000	¥55,000

●CAR (キャンディ・アップル・レッド) は特注カラーです。SST-45、STL-50を除くモデルで製作いたします。価格はSST-50のCAR ¥55,000 SPB-50のCAR ¥55,000 SJB-55のCAR ¥60,000 ストラップは付きません。



どうなんでしょうかね？別にヒイキメに見てるわけでもないんですが、ここんどこ、何故だかストレートでシャープなギターの色が、やたら耳につきます。時代の音とでも言うのでしょうか？いわゆるニュー・ウェイブなんていわれている音楽では、特にその傾向が著しく思えたりするのですが、その一方では、例えばロックンロール族の間でもフェンダーの音は、どうも不可欠という結論に達しているらしい。時代が勝手にワープしちまってるんでしょうか、それともフェンダーの威力が時代をワープさせちまったのでしょうか、とにかく、そのところは、当事者であるプレイヤーに聞くのが一番です。終戦直後の、つまり進駐軍管制下の古き良き“アメリカ・コンプレックス丸出し”時代の日本の文化事情を、軽快なブギウギ・リズムに乗せてロカビる、東京JAP。片や、初期のローリングストーンズ、キンクスなどに通じるシャープでタイトなビートに乗せて、正に今を語る4人の男たち、ルースターズ。この両グループから、ギタリストをピックアップすると、何故か愛用ギターがフェンダーになるというフシギ不思議。

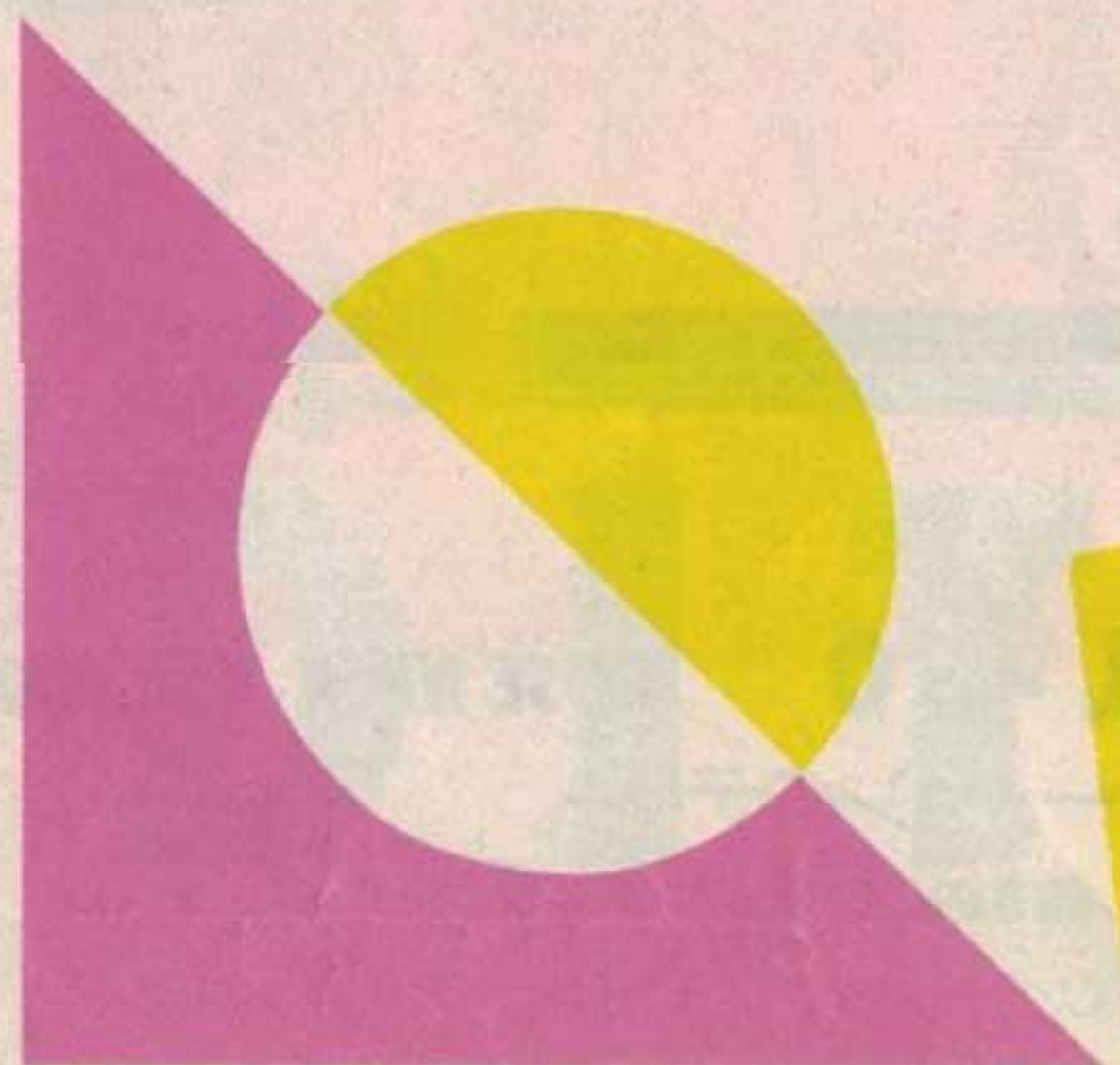
立川利明（愛称タチ／東京JAP）は、なんとなく雰囲気魅かれてストラトキャスター。花田裕之（ルースターズ）は、あるレコードに触発を受けてストラトキャスター。それぞれルーツは違っても、何故かピッタリの“なるほどザ・フェンダー”。

# なぜ、フェンダーなのでしょう対談

—それぞれ、どういうものから音楽の世界にはいったんですか？

花田裕之（以下、花田）：僕はやっぱりストーンズの最初とか、イギリスのビート・バンドとかですね。あと、サンハウスのころから、鮎川（誠）さんがアイドルでしたし、アメリカもなかったらイギー・ポップなんかかもの凄く好きでしたね。

立川利明（以下、タチ）：えーとね。僕の場合、音楽のルーツなんてないですよ（笑）。…あのね、好きになったのは、キャロルとかが出たでしょ？あのころなんです。それでね、バンドとかやり始めたのも遅くて、高校2年ぐらいなんです。そのころに今のギター買ってね、今だに持っているのはそれだけなんです（笑）。「あ、ウッチャン（内海利勝）がフェンダーのギター弾いてんじゃない。あれにしようってね（笑）。



花田：僕も、鮎川さんのレス・ポール・カスタムがカッコイイなって思って使った時期があったな…。

タチ：ああ、僕の場合キャロルでなきゃダメってわけじゃなかったんですけどね。…僕は、レコードとか買わないし、普通ギターやってる人ってミュージシャンのこととかよく知ってるでしょ？ディーブ・パープルとか…。僕そういうの全然知らなくてね。ま、そんな具合だったんだけど、バンドやってる先輩がいてね、その人たちがギター教えてくれるっていうんで、チョレコート1個持って行って教えてもらっててね。それがキャロルとかだったんですね。で、2年ごろになってたまたまはいったバンドが、そういうのが好きで、キャロルとかやるようになってたりですね。僕としては、ギターは

立川利明（東京JAP）



どうでもよくてね。むしろ歌が歌いたくて、最初は歌ばかりでした。

花田：僕の場合は、中学の時、友だちの兄貴のバンドを見に行ったりしてたんですけど、そのバンドはバファロー・スプリングフィールドなんかやってて、で、そのバンドに入れてもらったんです。でも、ギターはなかなかうまくならなかったですね。今でもそうですけど（笑）。

—今好きなのは誰ですか？

花田：今は、キャプテン・ビーフハートとかね。

タチ：僕、知らないなその人。僕の場合、ほとんどレコードきかないから…。少し前だったら、高中（正義）とか聴いてましたけどね。あの人、昔からいっぱい出してたんでしょ？でも、それ全然知らなくてね。たまたま何かで聴いて「あ、いいな」って思って買ったってね。

花田：でも、JAPの音と高中じゃ随分違いますね。

タチ：全然違いますね（笑）。

—勉強になりますか？

タチ：勉強なんてしてないんですよ全然。

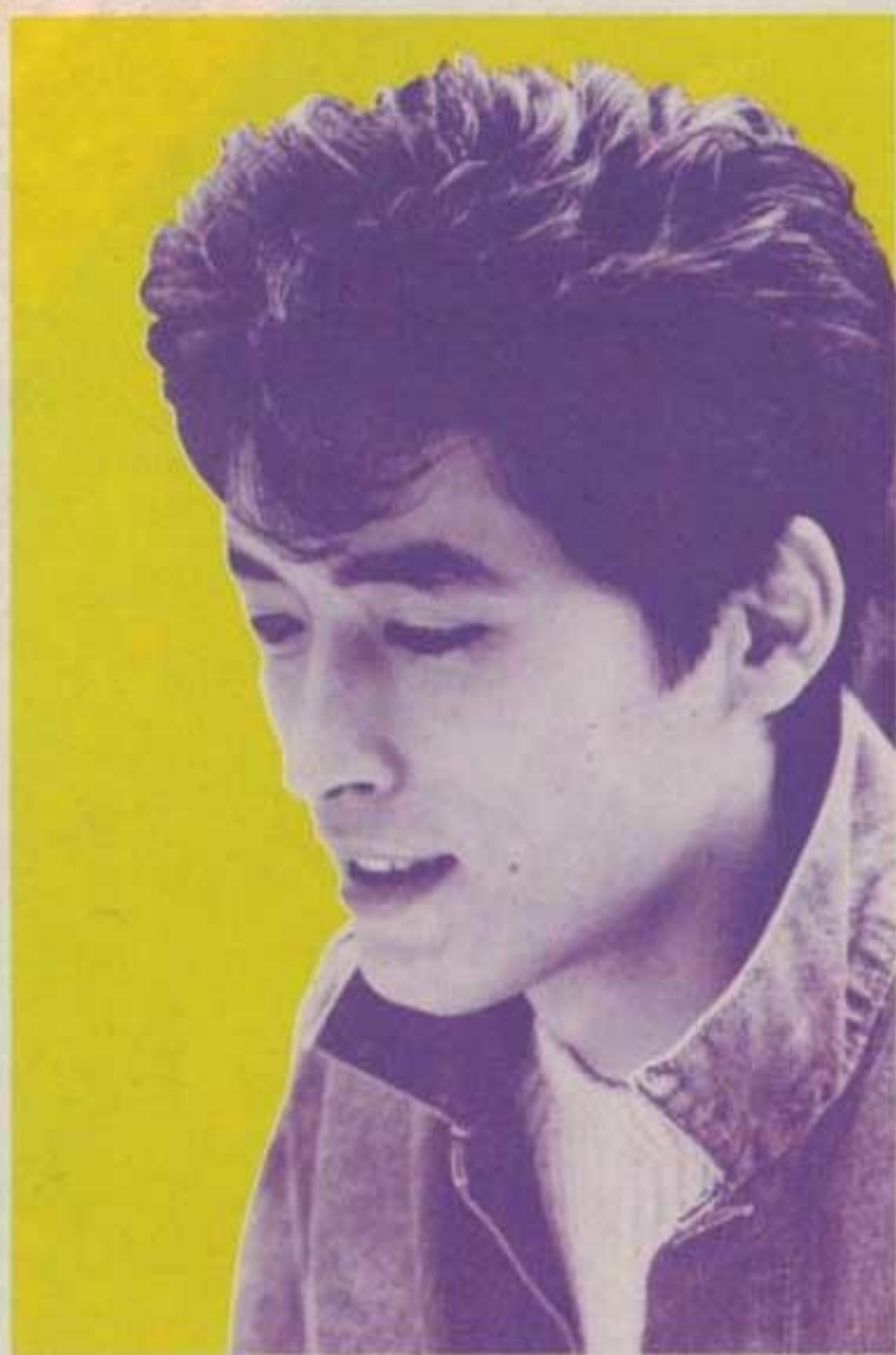
—じゃ、誰のレコード聴いて勉強したんですか？

タチ：うーん、とにかくそういうのはないんですよ（笑）。僕、音楽少年じゃないんですね、きっと。自分でも、おかしと思うんですけど。自分で、好きなのってありますけど…。例えばサザーン（オールスターズ）とかいいなって思ったりはするんですけど、具体的にギターでどうこうというのはないですね。

—じゃ、音楽以外では、どんなのに興味持ってますか？



花田裕之(ルースタース)



タチ：女ですね。僕はそれしかないですね(笑)。

花田：僕はスポーツです。バスケットが好きなんです。スポーツ雑誌買ったりとかまではしないですけど、向こうのプロの試合だったらたまに見に行くし、テレビで見るのは好きですね。やっぱり自分でやってたスポーツだし、思い入れもあるし…。

—タチくんは？やっぱり女の娘？

タチ：そう(笑)。最近かわいい娘多いでしょ？もう、見てるだけでうれしいですね。…でも、僕もハンドボールとかやってたんですよ。自分たちでチーム作ってね。でも、試合なんかどうでもよくて、ただただ派手さだけでやってたんですね(笑)。

—そういう、音楽以外のまわりのものに刺激を受けて自分の指向が変わったりはしませんか？

花田：刺激は受けるけど、どっちかって言うと、それを吸収するタイプだと思うんですね。わりと、まわりから教えられることは多いですけどね。

タチ：僕の場合は、きっとギター少年じゃないと思うんですね。だから、自分で曲とか作るでしょ？その時リードのこと考えるぐらいでね。根本的に、あんまり、どうこうって考えないですからね。…普通、ギターやってたりすると、ギターの2、3本ぐらい持っているでしょ？でも、僕はフェンダーの1

すか？

タチ：最近ですね。でも、やっとこさリズム・パターンが解かるぐらいでね、もうタイヘンですよ。

—ルースタースの場合は、譜面なしでしょ？

花田：ないです。でも、楽譜集が出るんですよ(笑)。

タチ：買って勉強したりしてね。

—バンドの中のギターの比重というのは、JAPにしてもルースタースにしても、非常に大きいんですよね？

タチ：まわりから見るとそうらしいですよ。ギターが音色作るんだから、もっと研究しろ、とか、いろいろね。でも、やっぱり自分でも、これではいけないなって思ってるんですよ。気が付かない間にね、どんな曲やっても同じフレーズになったりとかね、してね(笑)。

花田：僕もホントはしないんです(笑)。家にいる時はギター弾きませんから。

タチ：あのホラ、最近面白いなと思ったのは、ストーンズのキースとかね。昔の音楽雑誌とか見ても、有名なギタリストというリッチー・ブラックモアとかでね。キースって何にも出てなかったでしょ？(笑)…あいつのイイ加減さが好きだな…ってね。

花田：僕も、すごい彼に対しては思い入れとか強いけどね。あの、彼がロックパイルに飛び入りした時のテープがあるんだけど、もう、メチャクチャ。キラリズムも、はいるところもメチャクチャですね。カッコいい。

タチ：そうね。あれ、何なんだろ(笑)。うちのバンドのやつも好きでね。最近よく聴きますよ。…うちの事務所にビデオがあるんですよ。それ見てたら、ミックとかは本番前になると「ハア、ハア、ハア」ってトレーニングやって

るけど、キースなんて酒飲んでペロペロになってるよ(笑)。大物ですよ、あの。

—例えば、そういうレベルでカッコイイっていうと、ニール・ヤングなんかがいると思うんだけど…。

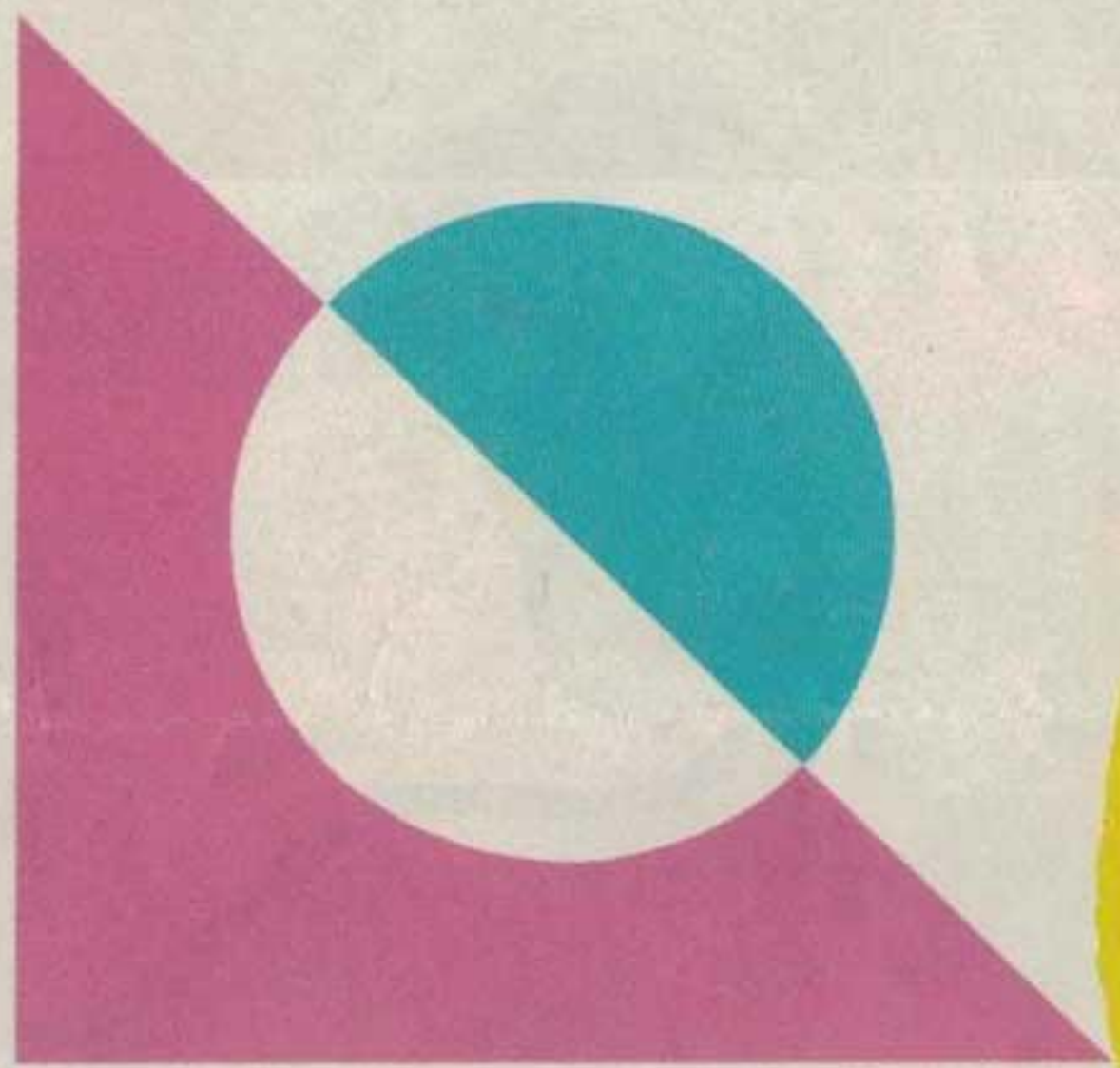
花田：やっぱり、あの辺が一番カッコイイと思うんですよ。そういうのが日本人には、あまりにも少ないと思いませんね。

タチ：ウン。

—自分でギター弾いててカッコイイなって思う時ありますか？

花田：ええ、僕の場合は、ステージの最初の曲が始まる最初の音ですね。たまに興奮しますよ。

タチ：僕の場合、あんまり意識はしないですけどね。あの…ちょっと話しは違うけど、うちのバンドってヒッチャカメッチャカでしょ？だから、ボーカルなんか何も持たないでウェアとかやっててね、だから、「ああ、俺なんかギター持ってて損してるな」っ思ってね、

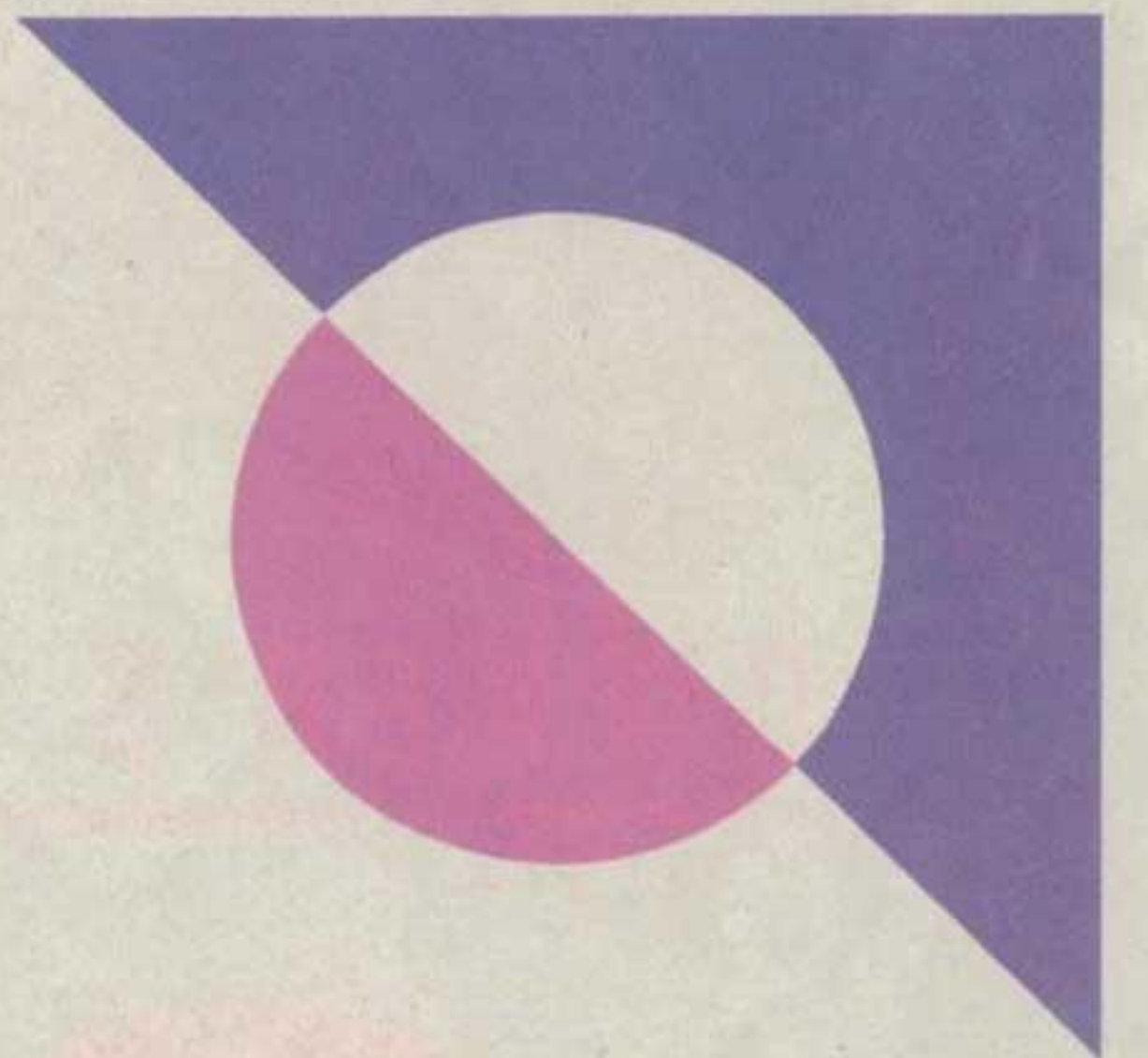


「チキショー！」って思ってガアッってやってるのが、きっとそれがまわりから見たらカッコいいなって思うんだろうな…。

—ところで、ふたりともフェンダーのストラトキャスターの愛好者なんですけど、どうやって手に入れたんですか？

タチ：買ったのは高校1年の時なんですけど、本とかで外国のミュージシャンとか見てね、「あれはきっとイイ音が出るぞ」って思って。もう、6年近く使ってるのかな？1度、芝居やってたところに、仲間にとられて質屋に入れられてね。その腹イセに、ちょうどネックが悪かったのを直してもらった。

花田：僕は、まだ使って1年ぐらいなんです。それまではホントに根が



らのハムバッキング党でね。それが自分でもどういいうわけか解らないんだけど、ストラトが良くなったんですね。最近レコード聴いても「あ、フェンダーやな？」って思うレコードが多いんですよ。特に、昨年出たニコのアルバム聴いた時、「あ、凄いな」って思ったんですね。サイド・カッティングだけなんですけどね。…それで使ってみようかと思ったんです。

—使ってみて良かったなって思うことはありますか？

花田：やっぱり良かったなって思いますね

タチ：僕なんか、他のを使ったことないから知らないけど、ずっと使ってるから弾きやすいでしょ？だから、他のやつだと弾けないんですよ。

花田：こないだARBのステージのアンコールに出さしてもらって、(田中)一郎さんのレス・ポール弾かしてもらったんですけど、なんか、うまく弾けなかったですね。だから、今と僕はこれで行こうって思ってます。

—あのギターの面白ろさってどこにあるんでしょうかね？

花田：音が、もう凄く素直に出るシンプルやし…。それに、ストラトって鳴りがいいから、家でも弾けるでしょ？それはレス・ポールじゃできない。

タチ：それは言えてる(笑)。

本きりだし…。まったく、そういうのにはこだわらない。逆に、うちのもうひとりのギターの奴がね、すごいギター少年なんですけどね。譜面の読み方だって、最近ですよ、覚えたのは。それまでは、もう勝手に弾くしかなかったですよ(笑)。

花田：譜面でレコーディングするんで

STRATOCASTER





## OWNER'S CASE PRESENT

FROM  
**1982-11/15**  
TO  
**1983-1/20**

ヴィンテージフェンダーシリーズ  
お買上げの方に、ナイロン製のハイテ  
クなオリジナル・オーナーズケースを  
プレゼントいたします。

期間は1982年11月15日より  
1983年1月20日まで。このチャン  
スを見逃すてはありませんよ。

## 左用ヴィンテージ・フェンダー登場。



**LEFTY  
FENDER  
PICK'N GOOD!**

左ききのギタリストの方、ベーシストの方、お待たせしました。  
ヴィンテージ・フェンダーシリーズにレフトハンドモデルが加わり  
ます。価格は定価の20%アップ。対象となるモデルは表の通りです。

MODEL	COLOR	PRICE	ACCESSORIES
ST'57-65/L	T, VWH, BLK	¥78,000	ストラップ、コード付
ST'62-65/L	3TS, VWH, BLK	¥78,000	ストラップ、コード付
* TL'52-65/L	BLD, BSB	¥78,000	ストラップ、コード付
* PB'62-75/L	3TS, VWH, BLK	¥90,000	ストラップ、コード付
* JB'62-75/L	3TS, VWH, BLK	¥90,000	ストラップ、コード付

\*ご注意：次のモデルの発売予定はTL (TELECASTER) 83年1月末、PB (PRECISION BASS) 83年2月末、JB (JAZZ BASS) 83年3月末 ●規格及び仕様は、改良の際予告なく変更する場合があります。



**F** ENDER AGENT

*Fender*  
JAPAN

フェンダー・ジャパン株式会社  
〒101東京都千代田区神田銀治町3-4-2  
神田東洋ビル12F TEL 03(254)3642  
●価格・仕様などお断りなく変更  
する場合があります。

VOL. ② 1983